

2010 年度報告書 (COE 教員)

氏 名	赤枝香奈子
職 位	特定助教
<p>研究概要</p> <p>近現代日本において、なぜ今日のような親密圏が形成されたのか、また現在、いかなる親密圏の再編が見られるのかを明らかにするため、比較社会学的観点から、特に同性同士の親密な関係に焦点を当て研究を行ってきた。</p> <p>本年度は昨年に引き続きフィンランドにおいて、同国のセクシュアル・マイノリティのネットワークと同性間パートナーシップについて現地調査を行った。また、2008 年度にタイ（バンコク）で行ったセクシュアル・マイノリティにかんする調査の追跡調査を行った。</p> <p>研究成果については、オランダのライデンで行われた学際的な国際会議 <i>Conceptualising 'Friendship', its meaning and practice in time and place</i> において、近代日本における女性同士の友情と愛情の分節について議論する口頭報告を行い、プロシーディングスを執筆した。また、科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成を受け、これまでの研究成果の大成となる著書『近代日本における女同士の親密な関係』を刊行した。</p>	
<p>教育概要</p> <p>文学研究科社会学特殊講義兼グローバル COE 関連科目であるオムニバス講義「親密圏と公共圏の再編成」において、「女同士の親密な関係とロマンティック・ラブ」のテーマで計 2 回の講義をおこなった。</p> <p>昨年度まで主催していた歴史研究班共同研究「戦後日本におけるジェンダーとセクシュアリティの歴史研究」を引き継ぐ GCOE コアプロジェクト「戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編」（リーダー：小山静子）を開始した。本プロジェクトの幹事として、毎月の研究会のほか、特別セミナー（2010 年 11 月、2011 年 3 月）を開催した。特別セミナーは、GCOE の趣旨を考慮し、日本のセクシュアリティ研究の最先端を大学院生向けにわかりやすく伝える内容となるよう工夫した。このほか、次世代グローバルワークショップの運営や成果出版関連の仕事を通して、院生や次世代研究者へのサポートを行ってきた。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><b>【著書】</b></p> <p>（単著）『近代日本における女同士の親密な関係』、角川学芸出版、2011 年 2 月</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>（口頭発表）<i>Women's Intimate Relationships as Romantic Love: A Historical-Sociological Study of Women's Friendship in Modern Japan, Conceptualising 'Friendship', its meaning and practice in time and place, International Institute for Asian Studies, Leiden University, October 1. 2010.</i></p> <p>（分担執筆）「近代家族という文化」、井上俊・長谷正人編著『文化社会学入門』、ミネルヴァ書房、2010 年 10 月、128-129 頁</p>	

